

新潟県知事選挙公報

新潟県選挙管理委員会

住んでよし、訪れてよし!の新潟県を目指して



はなずみ 英世

ひで よ

新潟県民の皆様の安全と安心を確保することを第一に、持続可能で暮らしやすい地域社会をつくることにも、国内外の人や企業に選ばれ、活力ある新潟の実現を目指してまいります。

花角 英世

〈現新潟県知事〉

基本姿勢

- 対話を通じた「県民最優先」の県政を実現します
- 課題に誠実に取り組み、一つ一つ結果を出していきます
- これまでの8年間の成果をさらに大きく育てます

4つの約束

子育てに優しい社会、一人一人が輝く社会をつくりまします

●子育てに優しい社会を実現
結婚・妊娠・出産・子育てへのニーズに応じたサポートや、男女ともに働きやすい職場づくりに取り組まします。

●一人一人が輝く社会づくり
女性が希望に応じて活躍できるような、エンターテインメントの解消等に取り組まします。未来を担う子どもたちが自己を伸ばせる教育を提供するとともに、福祉の充実に取り組まします。

持続可能な暮らしやすい地域社会をつくりまします

●安全・安心に住み続けられる地域づくり
防災・減災対策の着実な推進により、災害に強い県をつくりまします。中山間地や離島などの活力を維持できるように、地域づくりを応援します。

●県民の安全最優先で原子力防災の充実等を推進
柏崎刈羽原子力発電所については、県民の安全・安心を最優先に、国や東京電力に安全対策の徹底を強く求めます。原子力防災の取組の充実を図り、避難計画の効果を高めていきます。

持続可能で質の高い医療と「健康立県」を実現

安心して質の高い医療が受けられるよう、医療機関の役割分担・連携を進めるとともに、医師、看護師確保対策をさらに進めます。

人や企業、投資を呼び込む成長戦略を展開し、活力ある新潟をつくりまします

●挑戦を後押ししながら活力ある産業を育成
人や企業、投資を呼び込み付加価値の高い産業を育てます。起業創業者や地場産業、農林水産業、まちおこしや観光などを含め、挑戦する方を後押しします。陸・海・空の交通ネットワークを強化し、日本海側の拠点性を高めます。

●新潟ブランドを更に磨き、新潟県への存在感を向上
世界中の人々が「佐渡島(さどじまの金山)や豊かな自然・食など、新潟が誇る魅力・ブランドに興味を持ち、訪れてくれるよう、先頭に立ちセールスを展開します。

堅実な行政運営に努め、県民目標の行政サービスを提供します

危機的状況にあった県財政の改善を持続するとともに、県が率先して働き方改革、デジタル化を進め、民間の活力も活用しながら、県民ファーストの行政サービスを提供します。

プロフィール

昭和33年5月生まれ
妻・娘2人の4人家族
趣味は、山歩き、街歩き、ラーメン、カレー好き

昭和33年5月佐渡市生まれ
新潟高等学校、東京大学法学部卒業
昭和57年4月 運輸省(現国土交通省)入省
平成25年4月 新潟県副知事就任
平成27年9月 海上保安庁次長就任
平成30年6月 新潟県知事就任(現在二期目)

私の想いをこちらからご覧ください

1 変える! CHANGE 県政一新

- 直接県民の意思を確認する、常設型県民投票条例を制定
- 再生可能エネルギー立県 エネルギーの地産地消で将来原発に依存しない社会へ
- 官製談合の再発防止 公正公平な入札制度改革と県庁全体での組織的対応強化

2 止める! STOP 人口減少・少子高齢化

- 学生、若年層、子育て世帯の賃貸住宅への定額家賃補助(月額1万円)
- 0~5歳保育料完全無償化。小中学校給食費ゼロで市町村子育て格差解消
- 雪が降っても酷暑でも楽しく遊べる全天候型こどもの遊び場の整備支援

3 上げる! UP 県民所得・賃金

- 緊急物価高対策として一般家庭での水道基本料金を無償化(令和8年中)
- 価格転嫁の推進と生産性の向上による持続的な賃上げ実現に施策を全面展開
- 農業者の所得補償制度(直接支払い)の実現に向け国政に仕組み提言
- 女性の賃上げに積極的に取り組む企業への助成金制度の創設

3つのアクションで未来の新潟へ!

政策、実績、日々の活動などWebサイトやSNSをご覧ください

上越市(旧柿崎町)生まれ、38才。2009年長野高専を卒業し、民間企業へ就職。2015年上越市東本町で「八百屋の土田」を開業し経営。2016年より森ゆうこ参議院議員、梅谷守衆議院議員の公設秘書を務める。政策秘書資格保有。2023年に新潟県議会議員選挙で初当選。

■家族構成 妻・猫2匹(あずき・くるみ)
■趣味 テニス、写真、カフェ巡り
■身長 187cm 足のサイズは29cm
■愛称 ツッチー



つちだ りゆうご

38才 無所属

土田竜吾

今こそ、信を問う

新潟の未来は、新潟県民が決める。当然のことです。だとすれば、柏崎刈羽原発の再稼働のような新潟の未来に直結する問題は、本来は新潟県民が直接判断を下すべき問題ではなかったでしょうか?

一番大切なのは県民の意思。しかし花角知事は県民の声を聞くことなく「県議会に自分の信任を問うだけ」という県民不在のやり方で強引に再稼働を認めました。「県民に信を問う」という約束は果たされず、県民の思いは置き去りにされたままです。

政治に必要なものは「信頼」です。県民の不安に寄り添い、県民と真正面から向き合う誠実な県政が、今こそ求められているはず。私、土田竜吾は原発再稼働を前提とした2025年度補正予算案には決然と反対の意思を示しました。

県民のみなさん、今こそ信を問う。あなたの一票で、新潟の未来を決めましょう。

安中さとしの日々の活動はXで



(48) 安中さとし

加茂農林高校 卒業
立正大学文学部 卒業
五泉市議会議員 三回 当選
安中さとし何でも相談所 自営

署名を集めて回らなかったから本当は原発停止、廃止を目指していない?
反原発のイベントに参加していないから真剣に原発停止、廃止を求めている?
県民の行動に差はあれど、思いは同じ。この問題はアイドル等のファン論争に似ています。イベントに参加するファン、イベントに参加しないファン、黙って応援しているファン。私は全てがファンであり、これを認める社会が民主主義社会と考えています。

署名を集めて回った者、イベントに参加する者だけが本物というのは選民思想です。私は選民思想を否定し、原発への声なき声を代弁し、柏崎刈羽原発の停止、廃止の為に立ち上がりました。

- 青森県知事が2026年度の使用済み核燃料の新規搬入を認めないと表明したことによる使用済み核燃料の県内貯蔵量の増加
- 制御も抑制もできない、近日頻発している新潟県内に影響のある強い地震及び津波
- 国際情勢変化及びアメリカの先制攻撃や発電所攻撃発言を黙認する日本の対応と、憲法9条改定による日本軍復活等を契機とした周辺国との戦争時、穀倉地帯にあり、首都圏へ送電する新潟県の柏崎刈羽原発が攻撃目標になり得る危険性
- 事故や災害、他国からの攻撃によって、核燃料及び使用済み核燃料等による放射能汚染の発生、及び自然環境・農林水産物・健康等への直接・間接・風評被害

原発には様々な問題があります。安中さとしは、現実妥協して曖昧な態度で原発稼働を認める事はなく、原発の停止、廃止を諦めません。祖先が守ってきた新潟県を次の世代の子ども達へ渡す為、安心安全な未来の新潟県を実現する為に、言葉で誤魔化さずに柏崎刈羽原発の停止、廃止をしっかりと目指す、私、安中さとしにご投票下さい。

投票日



5月31日(日)

投票時間 午前7時から午後8時まで

※一部の投票所を除きます

期日前投票 5月30日(土)まで

投票日に予定のある方は期日前投票ができます。